

R05年度学校関係者評価(幼稚園)

学校評価(幼稚園)

教育目標(キリスト教精神に基づくバランスのとれた人間教育)

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	幼稚園としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標	B	「きれいなこころ あかいう子ども」を常に土台として日々の生活を行ってきた。教育内容にも合うよう細かく計画をしてきた。	B	・自己評価に同意
2	宗教指導	A	現在の起きている社会問題や事象に関して考え、教員同士改めて折り、また子どもたちにもわかりやすい内容で話をしてきた。それぞれが置かれている場所で、できることを考えてきたと思う。根底には、祈ることを主軸におき、SRIにも行事や日々の中で話をしていた。創立記念ミサの中の神父様のお話を教員同士意見を話し、分かち合った。	A	・子供がお祈りを口にしての聞き、浸透を感じました。
3	教育課程	A	pyp研修を行いながら、週2回の探究時間を設け行ってきた。自ら展開する内容となると、探究時間として行うよりも今までのような時間設定をする環境の方が一人ひとりの探究時間になるのではないかと意見が出てきた。それにより、来年度に向けてpypコーディネーターと内容を見直していきたい。	A	・自己評価に同意
4	教科指導	A	発達面やこだわり、言葉の遅れ等、それぞれの課題を早めに見つけ専門性のある先生を呼び指導をいただいた。そこで教員の関わり、支援策を指導いただいた。但し、園全体を見た時には、サポート教員が必要だと感じた。	A	・自己評価に同意
5	遊び指導	A	子どもと生活を共にし、あるべき姿として自覚をもって過ごしている。教師という上からの立場でなく子どもの目線になり、自由な中にも社会的ルール等身につくようにしている。	A	・自己評価に同意
6	行事	A	流行性の疾病もあったが気をつけながら、子どもたちに必要な経験として、様々な行事を常に企画してきた。また楽しくまたやりたいという思いにまでになり、行えてよかったことの振り返りも行った。それには、父母の会の支えも大きかった。つまり園と家庭との一致団結の園運営となり、子ども達の成長により行いになった。	A	・自己評価に同意
7	研修	B	新規採用された先生方は、1年を通して研修に出色々学びを深めていた。学園全体の研修にも参加し、サレジオの教員としてもカトリックの教えを深める機会が何度となくあった。他の教員に関しても、pyp研修等、学年会、など細かく行い常に保育を見返していた。	B	・自己評価に同意
8	生活指導	A	毎日の会議の中で、振り返り情報や現在の問題点などあれば、都度話をし解決できるようつとめてきた。	A	・園と子供達と父母との一体感を感じ、とても良い経験と思い出になりました。
9	保護者とのかわり	A	行事の項目にもあるが、幼稚園生活の全てが学びとなるので、その都度保護者には声をかけ、また相談も受け子どもたちにとって良い方向へと導いてきた。また、今年度から、役員としての主軸になる方がいて、あとは行事ごと、保護者のお手伝いを募る方式に転換した。仕事等都合が合うと積極的に参加していただき、とても園の行事が盛り上がりやすくなった。	A	・行事ごとにお手伝いを募り、保護者が関わることができたことはとてもよかったと思う。またダイジェストの活動などもあり、両親ともに園と関わりを持てる環境もとてもよい。 ・コロナ禍だったということもあり、3年間の園生活の中で学年全体の保護者が集まる参観はほぼなく、保護者同士の関わりは少なかったと思う。今後はそのような参観の機会がもっと増えることを願う。また子どもの様子を見守る参観だけでなく、いっしょに何かを作るなど保護者参加型の参観などもあるとよりよいと思う。 ・コロナ前に比べると行事は少なかった感があるが、今後は様々な機会が増えると良いと思う。 ・親身になって相談に対応して頂きアドバイスを戴きました。
10	安全管理	A	毎朝、担当が園庭の安全面を確認し、子どもたちが元気に遊び回れるようにした。何故ならば子ども達の体力、健康面の視点から、転んでも手が出せない、バランスを崩しやすい等の点が気になり、もっと外遊びを充実しケガが回避できるような体力づくりを心がけようとして取り組んできた。	A	・運動会の際に門扉が解放されていましたが、安全上問題ないのでしょうか？
11	分掌	A	職務や、担当に関しては、責任をもって取り組めた。時には、行事の重なりがあると手が回らなくなる時があった。非常勤等でも、教員の確保が必要である。	A	・自己評価に同意

R05年度学校関係者評価(幼稚園)

12	関連事業	子育て支援の一環としての預かり保育やその他の事業が適切に行われている。	A	預かり保育に関しては、現在いる預かり保育職員が、子育て支援員の研修を3名が受け、専門性をアップした。教員志望の大学生も入り大勢の目で子ども達に関わるようになってきた。放課後の習い事を増やし、預かり保育の充実にもつとめてきた。	A	・自己評価に同意
13	施設・設備	園の施設整備は子供たちが生活するうえで適切な環境として管理されている。	B	この数年、父母の会の方から遊戯室と管理棟の老朽化をご指摘いただいている件に関しては、積極的に取り組み計画を進めている状況になってきている。駐車場の件に関しては、降園後の引き渡しを行ったあとや、預かり保育の引き渡し後は、速やかに帰るよう呼びかけをしていきたい。保護者同志のコミュニケーションの場になっていて、危ない場面もある。	B	・自己評価に同意
全般、総合評価			A	園の行事を行い子どもたちの日々の生活や遊びの様子から、言葉の獲得、表現の豊かさ、体力向上、人と共にいることの大切さ、探究心など、様々な面から成長を感じることができる。年少組では、カウンセラーの講話を入れ子育ての悩みに視点を当てる、年中組は懇談会を行い他の保護者との情報交換の場にする、年長組は礼法の時間に保護者へおもてなしをし、1年間の自分自身の成長を発表する場を設ける、などの取り組みを行ってきた。それらと各行事を通して保護者からの理解も深めていただき、子どもを支える者たちが皆同じ方向を向き子どもの成長を支えてきたように感じる。特に保護者の方は行事のお手伝いも積極的に参加し、園の取り組みにも興味を示していただいた。感染性の疾病の広がりの懸念もありながら、子どもたちの健康面を支え楽しい園運営となった。来年度は、もっと外部講師を入れるなどして子どもの学びに更に力を入れていきたい。そして学園全体の学びにつなげていきたい。	A	・各項目を見させていただきながら、総合的な感想を書かせていただきます。いろいろな保育の場面においてカトリック園としての理念のもとにほいほいしてくださっていることに感謝です。保護者との連携もよくとれており、教師、保護者がそれぞれの子どもとの成長に関わっておられることがよくわかりました。今後の成長を期待しています。

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

新型コロナが感染症第5類に変更となり、園の活動は全体的に活発化しつつある。保育参観や、保護者懇談会等はほとんど従来の形に戻ってきている。保護者の方々には、幼稚園教の内容やカリキュラムにご理解いただけていることから、子どもたちの行事や園外保育等のイベントには積極的に参加・ご協力いただけた。このような活動を一緒に行うことができたことから、園と保護者の一体感が増し、子供たちの成長を同じ方向で見ていくことができたと感じている。今後も、教員はもとより、シスターや神父様、保護者、さらには周囲の方々も一緒になり、その時々で子供にあった教育を行っていきたい。教育の質向上の為に、教員研修の時間を計画的かつ十分にとり、教員の能力向上を目指していきたい。また、園児の預かり保育利用者が増えていることから、こどもの放課後活動にも力を入れ、その内容充実も図ってしていきたい。施設面に関しては、古い施設の更新について学園全体で改善方向へ話し合いを進めている。昨年度に話題となった送迎バスの安全管理についても、改めて注意を払うのと同時に、自家用車での送迎についてももう一度見直し、子供たちが安全に登降園できるよう気を配っていきたい。